

(3) 交通需要

シナリオに基づく交通需要の変化を以下に示す。人口の多い三大都市圏において公共交通機関への交通依存度が増している。

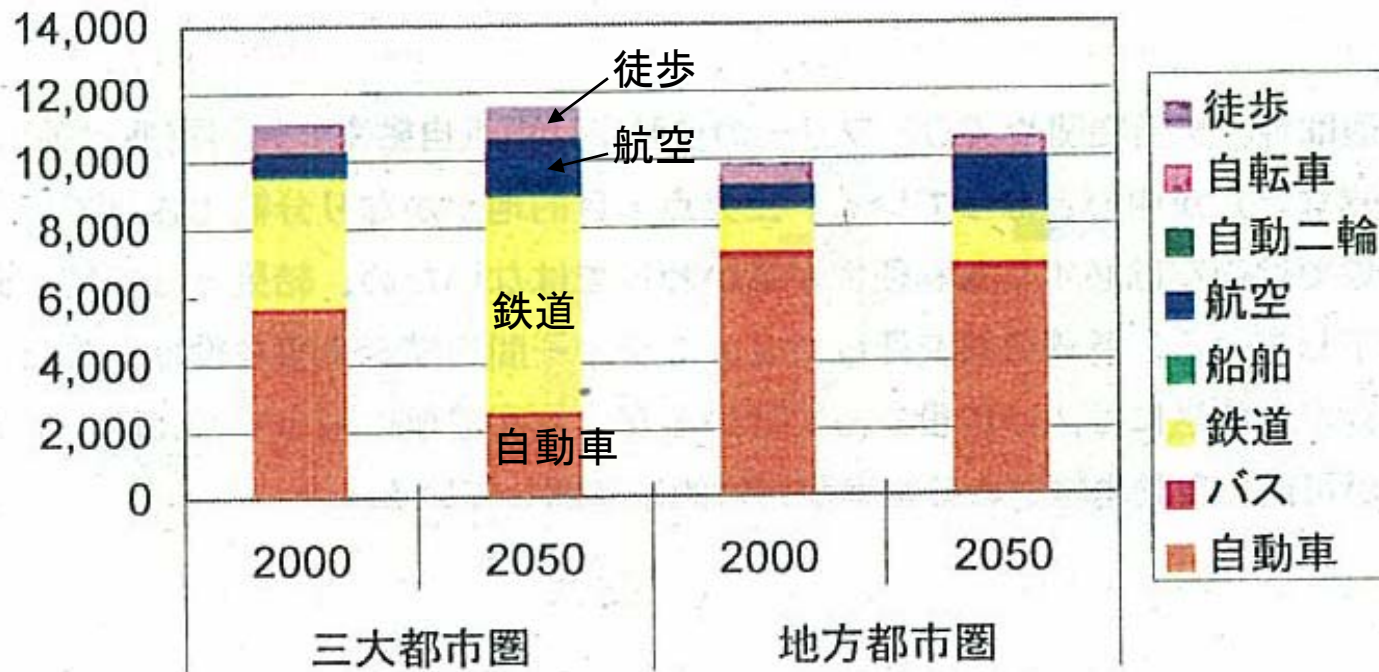


図 一人あたり年間交通需要 (人キロ)

2-3-2.都市関連のシナリオ

(1)シナリオコンセプト

都市シナリオイメージ

- ・都市型大規模集中社会
- ・都市圏人口はやや減少、郊外から都心部に人口流入
- ・郊外はアミューズメントパーク、自然共生地
- ・農村はバイオテクノロジーを駆使した民間企業による大規模高効率管理
- ・ITによってビジネス活性、移動活性効果

(2) 人口シナリオ

出生率	競争社会を勝ち抜くため、20～30歳代は自己鍛錬に注力する。結婚生活は自分の時間を奪うものと考える人が多く、晩婚化・未婚化の傾向は変わらない。その結果出生率は人口研・低位ケース程度(2005年時点)で推移する。
外国人居住者	政府は、外国人労働者を積極的に受け入れる環境を整備する。また、国民の意識も外国人労働者に対して好意的になる。2050年には全人口の約10%程度を外国人が占める。純入国者数は年間18万人程度。
日本人	グローバル化の進展により、海外企業・研究機関への就職・転職、海外拠点の転勤、海外留学が増加し、純出国者数は年間4～6万人程度。
都道府県人口分布	2010年以降、東京圏への一極集中が是正され、大都市圏・中核都市圏を有する県に人口が集中する。人口集中地域の純移動率は、東京、大阪、愛知では+1.5%/5年間、周辺県及び宮城、広島、福岡では+0.5～1.0%/5年間。
県内人口分布	人口減少の局面においてコンパクトシティが形成されるように各種誘導が行われる。結果として、各都道府県内における都市地域人口比率は1995～2000年における増加傾向のまま推移。

(3) 都市シナリオ ストーリーライン

人口減少社会の下、人口や資本の集中が進み、少数の巨大都市圏においては人口がある程度維持される。都心部では土地の高度利用(高層化、地下化)が進み、地価が低下する。家賃が高くないことから職住近接が可能になり、郊外から利便性が高い都心部に移り住む人々の比率が増加する。

(4) 都市部・郊外の姿

都市部では超高層や中高層ビル、地下空間が多く建設され、土地の高度利用によって生まれたスペースでは、公園や憩いの場、スポーツ施設等が作られる。都市緑化なども盛んに行われ、配電線の地中化など景観にも配慮した美しい都市づくりがすすむ。土地の高度利用および人口減少によって地価が下がるため、人々は都心居住が可能となり、電車や自動車交通の混雑が大幅に改善され、住み心地の良い、洗練された、コンパクトな都市構造が形成される。

一方、ニュータウンのようにこれまで居住地であった都市部郊外は、都心部への人口集中によって居住者が減少する。しかし、計画的かつ効率の良い都市計画によって、アミューズメント施設や自然共生地として再生され、週末には家族連れやカップルなどが身近に楽しめる場となっている。

(5) 地方の姿

農地、山間部においては、人口が大幅に減少する。このような中、土地資源の効率的な利用に向けた取り組みが進められる。農業・林業・漁業などは民間会社によって大規模経営され、機械化によって大幅に省力化され、ヒト、モノ、カネといった資源の効率的な利用が進む。最先端のバイオテクノロジーを駆使した日本の農業は、世界でも有数のレベルになる。世界の食糧危機回避にも大きな役割を果たしている。

また、エネルギー製造地域(エネルギー作物、太陽光発電プラント、ウインドファームなど)として利用される地域もあり、食糧自給率の向上、エネルギー自給率の向上など、様々な観点から持続可能な国家形成のために有効に国土が利用される。

(6) ライフスタイル

世帯数の構成人数は減少し、家族よりも個が重視され、若者や高齢者の一人暮らしが増加する。それでも不便のないサービスが提供される。人々が、居住するビルでは、さらに多様化する人々のライフスタイル、世帯構造、好みに合わせて同じビル内でも様々な間取りや家賃の住宅が提供されている。結果的に利便性、安全性の高い集合住宅に居住する人の割合が増加する。

個人のライフスタイルが尊重され、家族ひとりひとりの生活時間が異なる中でも、バーチャルコミュニケーションシステムの普及などによって家族とのつながりもある程度確保できるようになっている。

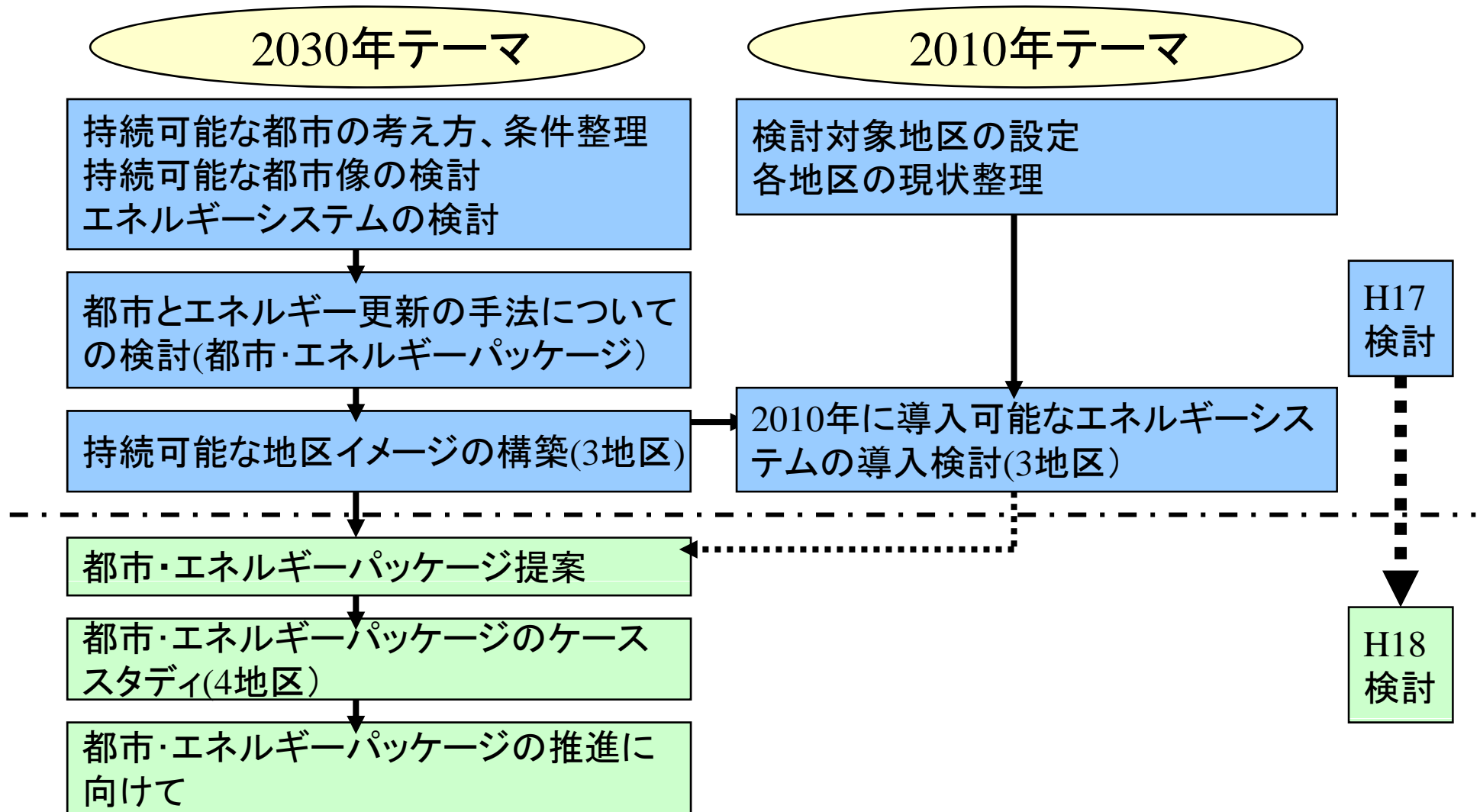
(7) ワークスタイル

個人の能力、特性、専門性に依じた雇用が標準となり、機会の平等が実現している。高い技能や専門性を持つものが尊敬され、どの分野でも自分に誇りを持つプロフェッショナルが活躍する。このため生涯学習の考え方が普及する。大学・専門学校・サブスクールを始めとする教育機関には、様々な立場・国籍・年齢の人が肩を並べて学ぶ姿が多く見られるようになっている。

ビジネスにおいては、ITなどによる様々なコミュニケーションツールが開発される一方で、面と向かった密なコミュニケーションも同時に求められるため、ビジネス交流が活発化し、交通需要は必ずしも低減しない。

3.日本の大都市の将来像 マイクログリッドによる大都市像

3-1.持続可能な都市とエネルギーに関する調査



3-2.都市とエネルギーの組み合わせメニュー

- ①賑わいを生み出す広場や公開空地の地下を活用したエネルギーセンター
- ②建物大規模化による高度利用と高効率エネルギーシステム導入
- ③一体感を生み出す街区単位での建物更新と同時期・集中的エネルギー供給
- ④多様な都市活動を生み出す用途複合化と負荷平準化による設備容量の低減
- ⑤歩行者空間整備による線的空間を活用したエネルギーネットワーク